

長期生態系観測プロット

この林は、かつては落ち葉や薪が採集され、人の影響を強く受けた武蔵野の雑木林（陽樹林）でした。1980年ごろから人の手を加えずに自然のまま放置し、都市の中に残された森林がどのように変化するか調べています。1999年から半永久的な試験地として、約5年ごとに胸高直径（注）4cm以上の樹木の種類・直径・樹高を調査し、気象観測も行っています。植生遷移が進み、シラカシやアオキなど常緑広葉樹が増え、うっそうとした陰樹林になりつつあります。倒木や枯れ木もそのままにし、明るくなった場所（ギャップ）にどのような植物が再生していくかも観察できます。面積は約1,270坪（0.42ha）です。

（注）胸高直径：胸の高さの幹の直径のこと。ここでは地面から130cmの位置です。
（2017年1月作成）

時間の経過



裸地	一年生 草本	多年生 草本	陽樹林 クヌギやコナラなど 落葉広葉樹の多い林	陰樹林 シラカシやアオキなど 常緑広葉樹の多い林
----	-----------	-----------	-------------------------------	--------------------------------

しよくせいせんい
植生遷移とは

時間の経過とともに、植物の種類が入れ替わる過程を「植生遷移」といいます。この調査地では、陽樹林から陰樹林に移り変わりつつあります。

詳しくは
こちら→

